

(様式1)

1 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成 27 年 5 月 11 日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3471502934		
法人名	有限会社 ひよし		
事業所名	グループホーム ひよし		
所在地	〒721-0972 福山市日吉台3丁目13番7号 (電話) (084) 948-6117		
自己評価作成日	平成27年4月20日	評価結果市町受理日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/34/index.php?action_kouhyou_detail_2014_022_kan=true&JigyosyoCd=3471502934-00&PrefCd=34&VersionCd=022
-------------	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人 医療福祉近代化プロジェクト
所在地	広島市安佐北区口田南4-46-9
訪問調査日	平成27年5月11日

【事業所が特に力を入れている点、アピールしたい点（事業所記入）】

グループホームひよしは日吉台という静かな住宅街にあります。開設して11年目になりました。敷地内には草木や花がたくさんあり、季節の移ろいを楽しみながら穏やかに生活しております。
理念に掲げているように家庭的な雰囲気を大切に、生き生きと笑顔いっぱいの暮らしができるよう創意工夫を心がけて日常生活のお手伝いをしています。地域の協力体制、ボランティアさんの協力も充実しております。行事の際にもお力添えを頂き、心に残るものとなっております。運営推進会議を通して今後も地域の方に開かれた事業所としての役割やボランティアの受け入れ体制にも力を入れ、地域との関係づくりをより推し進めていきたいと思っております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

グループホームひよしは開設11年目に入り、地域への交流を継続され認知度を上げている。施設は住宅街の団地の一角にあり、高台に位置しているのでリビング兼食堂の窓からは、眼下に住宅街と自然が一望できるので利用者の癒しになっている。事業所理念「人間としての尊厳・家庭的で暖かな雰囲気・能力に応じた自立支援」を掲げ、各ユニット理念・目標を作成し、利用者が地域の中でその人らしく、笑顔で楽しく、穏やかに過ごせるようにケアに取り組まれるなど、理念が活かされ実践に繋がっている。生活リハビリを毎日の共同生活の中で励行し、遊びリテーションの取り組みを重視し、日常生活そのものをリハビリと捉えて、楽しみ喜びを共に分かち合い生活のリズムを作るように努力されている。庭でレクレーションを行ったり、近隣の団地を散歩しスーパーに買物・ランチに出かけている。食事は、職員がメニューを考え毎日家庭的な料理を出されている。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	地域密着型の意義を踏まえた理念とはなっていないが、スタッフ全員で毎年自己評価に取り組み、勉強会では振り返る機会を設けている。	事業所理念「人間としての尊厳・家庭的で暖かな雰囲気・能力に応じた自立支援」を掲げている。又、各ユニット理念・目標を作成し、利用者が地域の中でその人らしく、笑顔で楽しく、穏やかに過ごせるようにケアに取り組まれるなど、理念が活かされ実践につなげている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	地域の集まりやイベント参加の他、運営推進会議の際は折りに触れて事業所の実践を伝えるようにしている。	利用者は地域の夏祭り(日吉台夏祭り・小松夏祭り)などに職員と一緒に参加している。近隣の中学生が職場体験で来所し利用者や職員と触れ合い、御礼の便りが施設に届けられている。地域ボランティアのグループが慰問に来られ、オカリナ・バイオリン・紙芝居等多彩な催しがあり、利用者は楽しんでいる。地域の防災訓練にも利用者共々参加して地域と交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	日常的に散歩や買い物に出かけ、あいさつを交わしたり、事業所のキャラバンメイトが要請に応じて他事業所と協力しながら認知症サポーター養成講座を開催している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	地域の方の参加を呼び掛けるためにも行事を通して触れ合う事を重視し、意見やアドバイスを頂き、参考にしている。	運営推進会議は、保健福祉課職員・日吉台連合会長・民生委員・日吉台公民館館長・包括支援センター・職員・事業所会長・専務が参加し、2ヶ月に1回開催されている。会議では、運営状況や利用者の生活の様子、行事開催報告等を行っている。会議で出た意見や助言は、事業所の会議で検討しサービスの質の向上に活かしている。	包括支援センターの参加が時折なので今後常時参加頂ける様に日程調整や参加依頼をされる事を期待します。
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	2か月に一度小地域ネットワークの集まり他事業所さんとの情報交換や行方不明者等発生した場合や緊急時等は連絡簿で迅速な協力体制をとっている。	管理者は、日頃より社協・包括支援センター主催の小地域ネットワーク(約16事業所)の集まりに参加し他事業所の情報や部屋の空き情報等交換し、市担当者に相談や連絡を行っている。又、認知症サポート養成講座開催に際しては、講師として参加し、協力関係を築くように取り組んでいる。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	抑制しない介護の取り組みでGHひよしが目指すものを掲げている。玄関の施錠はしない、ベッドから降りようとする人は、畳に布団を敷き休んでもらうなど環境整備に取り組んでいる。	身体拘束については、年間研修計画に取り組み研修を行っている。身体拘束(言葉による拘束等含む)や施錠する事の弊害等について話し合い、職員が理解できるように分かり易く伝えている。ベッドから落下の恐れのある方は、ふとんでの対応に取り組んでいる。夜間以外は出入り口に施錠は行わず、利用者お一人おひとりに対し見守りを重視し、出かけた方には、職員が付き添って出かけ、利用者の自由な暮らしを支援するケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	研修で学ぶ機会をもつようにし、会議で話し合う場を設け、理解や防止につとめている。スタッフの言動、関わりが影響し、症状の悪化を招くか学び、虐待の芽を摘み取る“不適切なケア”への振り返りとも言える		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるように支援している。	研修で学ぶ機会をもつようにしているが、利用されている方がおらず、理解も活用もできていない。学ぶ機会を持ち、活用・援助できるようにしていきたい。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	見学时・入居時に管理者が説明をし、納得や了解を得ている。十分な説明と一度ご本人も交えての見学なども勧めており、不安が少しでも解消できるように努めている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	面会時に家族を交えてお茶を飲んだり、話しやすい雰囲気づくりも心がけている。何でも言っていただけ関係づくりを日頃から心がけており、会議や朝の申し送りでも共有している。	利用者とは日頃の関わりの中で、家族については面会時に話し合い、何でも言ってもらえる関係作りに努めている。利用者・家族の希望や意見を聞き取り、申し送りノートに記載し、職員全員で共有し、会議で検討し、それらを運営に反映させている。「みんなちがってみんないい」の広報紙を毎月作成し、家族に利用者の施設での様子を伝えている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	改めて場を持つというよりいつでも聞けるというスタンスでいるよう心がけている。月に一度の定例会ではユニットごとの状態を伝える場も設け、把握や改善に向けて話し合いをしている。	月1の定例会で、会長・専務・管理者が会議を開いている。普段は主任から管理者に意見が集まった意見を定例会で検討している。又、毎朝の申し送り時やミーティングで出た意見や提案を聞いている他、随時職員に声掛けや個別の意見等を聞き運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	全体会議を年2回実施しており、認知症の理解を含め、各自が実践者としてステップアップできるようにしている。又研修の参加を惜みず、知識の共有につなげている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	希望する研修や講演会参加を呼び掛け、認知症勉強会で共有している。又現場で活かせるような環境づくりにつなげる事を目的にしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	研修会や小地域ネットワークでは近隣の事業所が集まった際、情報交換ができています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	本人様にも一度ホームを見学して頂き、実際に雰囲気を感じて頂きながら会話を進め、要望等をひきだしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	家族から初回面接時に困っている事をお伺いしている。初期の段階では気持ちの変更もある為、リラックスできるような話し方や傾聴しながら会話を進めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	本人・家族より状況・状態をしっかりお聞きし、必要な支援を分析。在宅サービスの種類を知らない方もいらっしゃる為、内容に合わせて近隣の事業所の紹介も併せて行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	グループホームは一般家庭と同じだという思いのできる事を見極め、能力に応じた援助を通して信頼関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	面会時に本人の状態を詳しくお伝えし、介護記録も見て頂き、情報交換を行っている。家族との絆を深める為にも、メッセージを書いて頂いたり、手紙で思いを伝える援助を行っている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	帰りたい気もちの強い方や面会の少ない方でも電話で極力声をかけ、気軽に来てくださるよう援助している。ちじん・友人どなたでも訪問しやすいようなホームであるよう日頃の様子をお伝えしている。	利用者が毎日買物や散歩に出かける時間帯を、地元の方が多く出かけられる時間帯に合わせ、出会いの場作りをしている。又、近隣の知人・友人が自由に来訪されていて、関係が途切れないように支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が同士の関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	相性の関係や難聴の方もおり、口調が強くなることもあるが、作業や会話を通して仲良く、穏やかな関係が保てるよう援助している		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	サービスが終了しても、家族から電話で入居相談者の紹介はある。在宅復帰された方はおらず、施設同志の連携はあり、相談や援助に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いやりや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	本人に対する傾聴はもちろん、発語の困難な方についても生活や行動の把握、非言語コミュニケーションを重視し、小さな変化でも気付くようユニット会議や朝の申し送りで情報の共有に努めている。	日々利用者とコミュニケーションをとる中で、思いが把握できるように努めている。把握が困難な方には、動作・表情等から汲み取り、家族からも情報を頂き、カンファレンスで本人本位に検討し職員間で情報を共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	本人・家族より情報収集した生活環境や生活歴を参考にしている。サービスを既に利用されていた事業所での生活状況や居宅のケアマネにも情報の提供をお願いしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	介護記録にて日々の現状の把握が伝えられ、申し送りやユニット会議にて共有するようにしている。毎日の小さな気付きの感性にもスタッフ間で取り組み、日々の生活につなげている		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	アセスメントで現状を踏まえ、本人・家族・各担当にて要望・助言をいただきながらアイデアを出し合い、作成に取り組んでいる。	利用者お一人おひとりに、担当職員が2人付き、モニタリングを3ヶ月に1回、アセスメント・ケアプランの作成を6ヶ月に1回行い、利用者・家族の希望を聞き職員間で話し合い、現状に即した介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	日々、入居者と関わりながらちょっとした言動やスタッフの気付きなど記載する習慣をつけ申し送りや会議などで共有し、サービスの向上につながるよう話会うようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	一日の基本的なスケジュールはあるが、食事・入浴時間など、心身の状態に応じ個別的な対応をとるなど臨機応変に対応している		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	比較的歩き易いスーパーでの買い物や行きつけの本屋での定期購読のための注文など個人個人が暮らしを楽しめるよう援助している		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	月2回の往診にて病状の安定が図れている。往診時には必要に応じて家族への同席もお願いし、つながりを大切にしている。	契約時に利用者・家族の意向を確認し、希望する医療機関への受診を支援している。協力医療機関による月2回の往診を受診して利用者の体調管理をしている。又、24時間体制で、電話連絡や往診が受けられるように体制作りが出来ている。薬剤師が、月1回の担当者会議に出席し、利用者が服薬される薬の指導・説明をしている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	緊急時の対応、情報の共有、相談において異常の発見・予防に努めるようにしている。医療的な相談はもちろん介護スタッフの対応にも助言していただき共に支え合う関係で援助している。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	退院後もスムーズに生活できるよう、注意点を退院前に引き継ぎ、本人・家族の意向を聞きながら連携をとっている。入院時も定期的にお見舞いに行き、普段の様子をお伺し、状態を共有している。			
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	重度化した場合など、「終末期における対応についての同意書」にてグループホームで可能な対応を説明し、本人・家族の希望される対応についても話を伺っている。夜間の往診・訪問看護も受けられる体制になっている。	重度化や終末期に向けた指針を入居の際に家族に説明し、文書で指針及び同意書を得ている。事業所としては、家族の希望があれば、看取りを行う意思があり、看取り経験もあり、職員も方針を共有して取り組んでいる。重度化した場合、家族、医師、関係者等で繰り返し話し合い、医師・訪問看護・かかりつけ医と連絡を取りながら本人にとって最良の方法を検討し、チームで支援に取り組んでいる。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	緊急時対応マニュアルや書籍もすぐに見られる場所に配置され、対応方法などはカンファレンスなどで確認しているが、定期的までにはいかないため、実践力にはつながっていない			
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	年2回の防災訓練・消防署との視察により、注意点の明確化やノウハウを身につけている。自治体が開催する訓練にも参加し、災害時の協力体制をお願いしている。	消防署が年2回来られ避難・通報訓練・避難方法の確認・消火器の使い方等訓練を行っている。近隣の方にも防災訓練の実施について連絡している。又、防災訓練は運営推進会議の開催日に実施し、会議参加者と利用者・職員が参加し実施している。		
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	個人を尊重し、安心感を与える声かけを常に心がけるよう、言葉遣いの配慮に注意している。理念を念頭に置き、本人の自尊心を損ねることがないように心がけている。	職員は、利用者お一人おひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねないような言葉掛けや、排泄時・入浴時等羞恥心に対する配慮などきめ細かな対応がとられている。また職員の不用意な発言が見られた場合はその都度注意し、会議でも言葉かけについて検討している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表現したり、自己決定できるように働きかけている。	コミュニケーションを多くとる関わり方で思いや希望を引き出しやすい環境づくりを心がけている。発語が困難な方については表情より思いを汲み取るよう働きかけスタッフ間で情報を共有している			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	入居者一人ひとりが生活の主体であることを念頭に置き、思いを尊重するよう心がけている。今日何が食べたいか？どこに行きたいか？反対にその日、気分が乗らなくても本人の体調やペースを尊重し、援助している。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	自分の好みの洋服はもちろん、帽子やアクセサリーの着用でコミュニケーションの活性化をはかり、気持ちが晴れやかになるよう援助している。			
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている。	入居者と職員は同じテーブルで同じ食事をとり、楽しい食事時間となるよう、会話に華を咲かせたり可能な方にはスタッフと一緒に食器を洗ったりお碗を拭いたりする作業をお願いしている。	職員がメニューを考え利用者個々の体調に合わせてながら、ユニットごとに食材の買い出しや調理・盛り付け・後片付け等共に行っている。職員は利用者と同じ食事を摂り、利用者と同じ席と一緒に会話しながら楽しい雰囲気の中で食事をしている。食材の中には、施設横の会長の畑で採れた新鮮な野菜等も食卓に上っている。時には、外庭での食事会も開かれ楽しまれている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	個別に食事・水分摂取量のチェックを行っている。少ない方に対しては食べ易い形態をその都度工夫し、提供している。嚥下状態の悪い方には刻みやトロミで工夫し、食べられる口を目指している。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	声かけ・誘導にて促し、スタッフの見守りのなか、洗浄介助や義歯洗浄剤の使用で定期的な清潔の保持を実践している。			
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	立位が可能な方はトイレでの排泄につながりながらも日中はトイレに座るよう誘導している。間隔があいた方などは声かけの配慮を行い、スムーズな排泄につながるよう援助している	トイレでの排泄を基本とし支援を行っている。排泄チェック表を作成し、利用者の状況に合わせた排泄支援を行っている。排泄の失敗を減らすように努め、パッドの工夫や利用者個々の状況にあったものを使用することで、不快感のないように自立に向けた支援を行っている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	薬に頼る前に食品での工夫やレクの参加など腸の働きを促し活性化を図っている。普段の生活の中で意識しながら水分量の確保もひとりひとり把握している。			
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている。	本人が入浴を楽しめるようコミュニケーションをとながら行っている。本人の希望によりシャワー浴を行ったり、体調に合わせて時間の変更を行う配慮を行っている	入浴は基本的に週2～3回、利用者の体調を見ながら安全・安楽な入浴を行っている。入浴を拒否される方には声掛けのタイミングや職員を変えたり、シャワー浴・足浴・清拭で対応している。面会時に家族に声かけて頂き、無理なく入浴されるよう個々に応じた入浴の支援をしている。重度の方には、安全に配慮し職員2人体制で入浴の支援を行っている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	気持ちよく眠れるよう寒暖の調節、状態により体位変換などを行っている。ベッドに馴染みのない方は布団にて休んでいただくような環境設定を行い今までの生活習慣の継続も図っている			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	居宅療養管理指導も受けており、目的や効果を理解することももちろん、症状の変化にも専門の方の相談がいつでもできるよう連携の確保ができている			

グループホーム ひよし

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人や家族より生活歴などの情報収集に努め個々の趣味や生きがいなど、昔やっていた事やそれに近い事ができる場面を提供し自信回復へとつなげ張り合いや喜びのある日々が過ごせるよう援助している			
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	積極的に外出に誘っている。日常的な買い物・ドライブに誘い、家族と一緒にの外出にも声をかけて協力していただけるよう支援している	職員は日常的な散歩の他、天気の良い日には、庭でレクリエーションを行ったり、団地内を散歩に出かけている。又、スーパーへ買物に出かけ、時にはランチをすることもある。ハイヤーでドライブに出かけ、春日池公園でバラ・菖蒲の花等の見学に行かされている。利用者によっては、ラーメンの食べ歩きをされている方がおられ職員が支援している。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	本人や家族の希望により、施設で管理しているお小遣いから希望のものがあれば一緒に買いに行き、選んでもらっている。また本人自信で少額の金銭管理を希望される方は家族の理解を得て行っている。			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	手紙を通じて自分の思いを自由に書きポストに投函している。本人の希望があれば電話もかけ、家族とつながるよう援助している。			
52	19	○居心地の良い共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	家庭的な雰囲気を大切に、混乱を招かないよう、分かり易くポスターを貼ったり、季節が分かりやすいよう共同で創作した飾り付けと一緒に飾るなど、工夫しながら取り組んでる。	リビング兼食堂は、対面キッチンになっているので、食材を刻む音やみそ汁のおいしそうな匂いが漂い、家庭的な雰囲気の中で利用者は落ち着かれています。又、窓からは日が良く差し込みとても明るく、窓越しに見える眼下の景色はパノラマで絶景である。リビングには観葉植物や季節の花が置かれ、利用者と職員が作成した季節行事の作品や利用者の塗り絵や貼り絵の作品が多く飾られている。家庭的な雰囲気で居心地よく過ごせるように工夫している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	自席でゆっくりくつろいだり、ソファーに腰掛けTVを見たり、クッションや背もたれ、足台などそれぞれが思い思いにひと時を過ごしている			
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	できるだけ使いたなくなった物を持参していただいている。家族の写真や仏壇などなじみのものや思い出のあるものが居室あり、コミュニケーションを図るひとつとなっている。	利用者は、居室に家族の写真・仏壇・タンス・本・人形・花・カレンダー等馴染みの物を持ち込み、居心地よく暮らせるように工夫している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	目的地にスムーズにたどり着きやすいよう各室ドアには写真や文字で示すなど、混乱しないような配慮をしている。必要な場所には滑り止め・手摺りを設置することにより安心・安全に生活して頂けるよう工夫している。			

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

グループホーム ひよし

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係やとのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
66	職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が ②職員の3分の2くらいが ③職員の3分の1くらいが ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の3分の2くらいが ③家族等の3分の1くらいが ④ほとんどできていない

(様式2)

2 目標達成計画

事業所名 グループホーム ひよし

作成日 平成 27 年 5 月 15 日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点, 課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	13	◎職員を育てる取り組みシフトの都合上、外部内部研修への時間が取れていない	年2回の認知症勉強会のみでなく新任・現任研修の年間計画を立て知識の共有と現場での実践を目指す	新任・現任・内外部の研修計画を立て月2回のユニット会議で勉強会を持つ	H27.5月 ~H28.3月
2	3	◎運営推進会議を生かした取り組み地域の方の要望を聞いたが、継続していない	運営推進会議の場で地域のニーズを把握し地域に寄り添った活動を展開していく	地域の方との距離を縮める為にもメニューリスト作成を行い、地域の方が相談しやすい環境作りから始める	H27.5月 ~H28.3月
3					
4					
5					
6					
7					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。